

今後の図書館サービスのあり方検討会（第1回）概要

- 【日時】 令和元年8月29日（木）16時～18時
【会場】 中野区立中央図書館地下2階セミナールーム
【出席】 別紙名簿参照（委員13名、事務局2名、傍聴者5名）

1. あいさつ（教育委員会事務局次長）

区としては、中野東中学校等複合施設内の図書館の整備・運営、地域開放型学校図書館の整備及び全区的な展開などの課題があり、内部的な検討はしているが、図書館サービスの大きな方向性と個別の事案の進め方の整合性が重要だと考えている。

そのため、この検討会においても、様々な角度からご意見をいただき、次世代に役立つ図書館をつくっていきたいと考えている。

2. 委員自己紹介

3. 検討の流れ（子ども・教育政策課長）

検討会は今日を含め4回開催する予定である。

中野区では、中野東中学校等複合施設内に図書館を整備し、2022年初めに開設する予定である。また、来年9月には地域開放型学校図書館をみなみの・美鳩小に開設する予定である。

昨年度、運営計画の作成委託を行ったが、滞在型の利用、ICT技術の活用など、図書館運営全体にわたる課題の指摘があった。また、学校についても学校図書館システムの導入、学校図書館指導員の機能の充実など、状況の変化を前提とした運営が望まれる。

これらの新たな課題を踏まえるとともに、図書館サービス網、ネットワークのあり方などの再検討を行い、ICT環境、利用者ニーズの変化に対応していきたい。

4 図書館の現状/計画の概要説明

資料1「第1回検討会資料」参照。

《主なポイント》

- 現在の図書館運営は、指定管理者制度で行っている。
→平成25年度から区立図書館全館で指定管理者制度を導入（同一事業者）。
- 施設の老朽化への配慮が必要。
→東中野図書館：昭和41年、本町図書館：昭和43年建築。

- 視聴覚資料の老朽化
→CDなど視聴覚資料の老朽化が顕著（買換の不実施）。
- 経費構造
→人件費が約70%。資料費は13.5%。書籍費は、現在7000万円弱、20年間で、4500万円～1億2000万円の間を行き来している（書籍費と貸出冊数に相関関係は見られない）。
- 学校図書館の蔵書の老朽化
→全国的な問題であるが、蔵書の更新が遅い（40年以上）。
- 学校司書（学校図書館指導員）の配置
→全校に、月16日、1日4時間の配置をしている（全国的にも充実）。
- 中野区立図書館の23区でのポジション
→閲覧席が少ない。
→全体的に貸出し数は少ないが、特に児童書では23区最下位（区民あたり）。
→登録率も低い（中野区は1年更新で、要件が一番厳しい）。
→区民一人あたりの図書購入費は下から3番目。
- 中野東中学校等複合施設内図書館の整備委
→第十中学校跡地（中央一丁目）に「中野東中学校等複合施設（10階建て）」の7～9階に図書館を新規整備する。蔵書17万冊、閲覧席300席、7階：子ども・子育て支援フロア、8階：一般フロア、9階：ビジネス支援フロアとし、令和4年1～2月の開設を考えている。
→鷺宮図書館の移転・建替として、鷺宮小学校跡地に20万冊規模の図書館を計画しているが、規模・開設時期は未定である。
- 地域開放型学校図書館
→小学校に設置。学校図書館に隣接し、区立図書館分館部分を設置する予定。蔵書規模は3000～5000冊であり、自宅近くに本の授受、図書館登録のポイントができる。来年度「みなみの小」、「美鳩小」、再来年度「中野第一小」に開設する。

5 質疑応答

- 多く統計資料があつてありがたいが、23区の面積と図書館数の関係の資料がほしかった。もともと中野区では、概ね800mの円に一つ図書館があり、現在のように8館で全区を覆っているが、地域的な偏りは今も存在する。それ故、その空白地域を埋めるような整備を考えて欲しい。
→ 館数と面積の資料は次回提出する。地域的な偏在については、地域開放型学校図書館の整備は一つの回答になると考えている。

6 意見交換

- 中野区の児童サービスの質が低いということではなく、歴史的には、若年層の居住が多いという人口動態上の影響と言える。児童サービスについては大田区などは独立した部屋に人を配置するなど力を入れている。
一方で、図書館のオープンスペース（ホール、閲覧席等）については、戦後米軍が主導

し、日比谷図書館などは地下に食堂があるし、小石川図書館などもスペースを大切にしている。中野区では本の提供を主とし、オープンスペースの配置には熱心ではなかったようだ。

また、目黒区は障害者サービスに力を入れ、レファレンスサービスは大田区が入り口を入ると、貸出し、相談コーナー、そしてレファレンスコーナーと位置的にも配慮している。

- 地域開放型学校図書館には反対である。セキュリティの問題もあるが、面積も狭く、図書 3000 冊～5000 冊であれば、単なる図書の授受等のサービスポイントにしかならない。今ある資源を有効活用するのであれば、地域開放型学校図書館を 9 時～20 時で開設するより、児童館などに図書館がアウトリーチサービスを行うことが望ましいし、学校内のキッズ・プラザの面積を拡げたほうが良いと思う。
- CD のカセット数はどれくらいあるのか。CD について、音訳された資料だけではないと思うがどれくらいあるのか。
 - クラシックが 7538。ポピュラー12417。その他 2098。音楽がメイン。カセットはクラシック 27。ポピュラー47。その他が 1089。
 - 録音図書については、デジタイズ図書（CD-ROM）671 タイトル、カセットテープ 481 タイトルとなっている。
- 録音図書は約 1100 タイトルだが、利用率はどうなっているのか。またリストはどうなっているのか。
 - 登録者数 31 名、録音図書の貸出しについては、139 回、422 点となっている。また、公開用の一覧リストはなく、登録者に個別対応している
- 録音図書の利用が少ない原因に、リストの提供の問題があるのではないか。カセットテープについても、デジタイズを進めて欲しい。
- 地域開放型学校図書館について、図書館としての機能、整備のメリットをどう考えているのか。
 - 区立図書館の分館としては、利用者登録、図書の貸出し・返却、レファレンス機能など、基本的な機能は整備することとなる。また、セキュリティや音の問題などもあるが、その辺も対応しながら進めることになる。
- 学校図書館は、読書センター、学習・情報センターとしての機能を有するが、蔵書数が十分でない学校もあることが現状。また、広さのことを考えると、学校の授業で読み聞かせを行う場合などもあり、地域の方との共存は難しい場合もあり、両者がぶつからない運営が必要。
- 川崎市は 3～4 校導入。広さも確保しており、入口が別などセキュリティも担保している。また、全国的には、学校の敷地内に公共図書館がある例はある。例えば、北広島市の小学校には、校門から大分入っていったところに学校図書館に併設された地区図書館が置かれていた。学校長は、小さな集落なので近隣関係は把握できるので大丈夫と言っていた。地域柄もあるので一言には言えない。世田谷区でも検討したが、学校長はセキ

セキュリティで問題があるというので反対していた。中央区でも導入しているが、エレベーターも入り口も別にしている。

- 個人的には、セキュリティ面などの心配が拭えない。過去に勤務した学校では、すぐ横が警察署であったが、地域に開放しているプールがらみで4年間で2回ほど盗難事件があった。また、広さのことを考えると、指導要領が新たになり学校図書館の重要性が高まる中、地域開放型の部分があることで、学校図書館の広さが制約を受けるといった心配もある。
- 学校側、区民の側、いろいろとメリットもデメリットもあるので、課題などを整理しながら、最終的にまとめていくことが必要。
- 高齢者の中で歴史の話題が出ることもあり、先日、中央図書館で伝記関係を探したら、ほとんど見当たらなかった。その辺はどうなっているか。
→ 中央図書館にも伝記のコーナーはあるが、利用者の関心度によりその広狭は決まるように思われる。学校図書館については、どの学校もその辺の配慮をしており、一定数の伝記はあるように見える。
- 個人的に歴史、最近では江戸時代末の変化に富んだ時期が好きであるが、図書館より、古書市などを利用する。最近では、新橋で入手した「水戸藩覚書」に感動した。
- 区立図書館は、子どもが学校に入るまでの間、親が連れていくところであり、個人的にも中央図書館に近いのでよく連れて行った。子どもは館内で静かにし続けることが難しいので、親が子どもと一緒に本の選択が可能ないように、児童書の近くに子育て本を置くなどの工夫を考えて欲しい。
子どもが成人してからは個人の調べ物ということになるが、ネット環境が中心となり図書館からは遠ざかっている。
- 徒歩圏内だけれども、中央図書館の利用はない。ペーパーレスが進んでいるなか、本を充実させるということはどうかと思う。
例えば、最近では、自分たちの活動でも七夕の笹の持ち帰りが、ごみが出るからいけないということになる。図書館機能として何を重視するかを考えていく必要がある。
地域開放型学校図書館については、いつでも学校には入れるということは、読書だけではなく、防災面などの考慮も含め大切ではないかと思う。
- 図書館は地域の居場所、ビジネス支援だけではなく、高齢者も含め、地域の居場所となってほしい。やはり、近くにあることが大切であり、東中野図書館、本町図書館は残して欲しい。
先日、日比谷図書館、千代田図書館に行ったが、若い人の場所という感じであった。小さい子は、子育てひろばやキッズ・プラザを利用する。新図書館なども作るのであれば、中高生の居場所を作ってほしい。
- 全学校図書館と区立図書館がネットワークでつながる。学校図書館指導員も全国で先駆けて導入しており、勤務時間数の拡大も視野に入っている。学校図書館はあ

る程度考えられている。

- 学校図書館と中央図書館との連携もある程度できており、今後一層の充実が望まれる。また、放課後、休日の居場所づくりということは重要であるし、教員以外の人が学校にいるということも有効である。地域の方が、学校を愛し利用すること、一つの文化センターであり、スポーツ施設などでもあること、子どもの居場所ということのをうまく整理しながら、有効な場所にできていけたらと思う。
- 区民委員に応募していただいた方のご意見で、図書館に行かないと本を借りられないのはどうかならないかという意見があり、定期的に司書さんが選んだ本を自宅に送るサービスができないかというものがあった。
- 子どもの居場所づくりに関して、江古田図書館でボランティアしていた方の話で、寄付でコミックがたくさんあるが、あまり図書館では置いていない。そういうものを含め、図書館が児童館とすこやかに本を置き、アウトリーチしたら有効ではないか。
- 高齢者の居場所、参加できる場としての図書館も考えて欲しい。
- 区としての図書館施策への評価、解決したい課題等が分かる資料がほしい。